1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0292100039		
法人名	社会福祉法人 愛児福祉会		
事業所名	グループホーム三愛園		
所在地	青森県西津軽郡深浦町大字関字栃沢80-9		
自己評価作成日	平成27年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	平成27年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

個々の生活ニーズを基にしたケアプランの作成を行い、利用者本人の持っている能力・願望・好みをニーズとして捉え、快適な生活ができるように援助する。
援助するスタッフもスキルアップ（専門性を高めること）を目指しており、内部においても福祉理念について学ぶ研修を多く行うことにより、利用者の最新の情報も共有して介護する取り組みを実践する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

児童には愛を、高齢者には愛と尊敬を、という法人理念の「愛望愛敬」を基本として、ホーム独自に「家庭的な雰囲気で利用者の皆さんと笑顔と笑顔の心豊かな交流」を掲げ、利用者が家庭的な環境と地域住民との交流の下に、安心して生活できるよう支援に取り組んでいる。
また、ホームは防災面においても、公共機関はもとより、地域住民と法人職員との力強い協力関係を構築し、安全対策についても強固な体制で取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

No.	項目	該当	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛望愛敬」が法人の基本理念である。赤ちゃんからお年寄りまで、心と心のふれあいを大切に運営をしている。	法人理念を基本にホーム独自の理念も掲げ、利用者が住み慣れた地域で住民と交流し、家庭的な雰囲気の中で、心豊かにホームで生活できるように取り組んでいる。また、毎月の会議等を通じて理念の理解と共有に努め、職員は常に理念を意識して、理念を反映させたサービス提供に努めている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者や地域の方々に理念が浸透するために、毎月、経営者と職員で打合会を実施している。理念を意識して接遇できるよう周知を図っている。	地域の神社大祭や町民文化祭、運動会等へ参加し、地域住民との交流を図っている。誰でも気軽に立ち寄れるホームづくりに努め、近隣の診療所への受診帰りに立ち寄っていただいたり、地域の婦人会や音楽愛好者、保育園児等も訪問している。また、認知症の理解に向けた普及活動や実習生の受け入れ等も行い、社会資源として具体的な役割を果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場や地域連絡会議において、認知症のケアについて、個々の事業所だけでなく、社会全体で見守る姿勢が大切である。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会の老人クラブ会長や民生児童委員がメンバーであり、会議の場で評価についても説明を行い、理解をしていただいている。また、地域の特徴を活かした活動を行うよう、委員の助言を大切にするように心がけている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催しており、メンバーには会議の意義や役割を理解していただき、出席率も良い。ホームからは自己及び外部評価結果や目標達成計画、運営状況等を報告し、メンバーからも火災や津波を想定した安全対策や、地域住民との交流促進への提言等をいただいており、今後のサービスに反映できるように努めている。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者が実地指導を含めて数回訪問してくださっている。また、メール等を利用して事務連絡が行われ、回答している。運営推進会議には毎回、町の職員が参加している。	毎回、地域包括支援センターの職員が運営推進会議に出席している他、ホームの運営状況や自己及び外部評価結果等を報告している。また、町主催の利用者サービスの質の向上に向けた指導講習会やグループホーム間の情報交換会にも参加し、町との連携に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同意書は用意しているが、基本として身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。実際に今まで行ったことはない。	職員は身体拘束の内容や弊害を理解し、身体拘束を行わない方針で日々のケアを行っており、職員間で声がけしながら常に利用者の行動を確認し、対応できるようにしている。無断外出時に備えて、近隣住民や警察、診療所、宅配業者へ協力をお願いしている他、これまでに事例はないものの、やむを得ず拘束が必要となった場合に備えて体制を整え、説明文書も整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については重要と考えており、外部・内部研修を実施し、未然に防ぐように取り組んでいる。地域包括支援センターとの連携を重要に考え、虐待を見過ごすことのないように地域ぐるみの運動にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護や成年後見制度についての研修を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	紹介された時は訪問し、本人と家族に不安を抱かれることのないように十分に説明し、見学に来てくださるように勧めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来た時にご意見を出していただけるようにお願いしている。重要事項説明書や広報には外部の相談先を明示している。	家族には利用者の暮らしぶりや健康・受診状況、職員の異動等について、担当職員のコメントを添えて報告している他、来所された際や独自のアンケート回収を通じて、ホームのサービスに関する要望等を聴取している。また、苦情・相談については、苦情解決委員会や町・県当局にも申し出が可能なことを広報で随時掲載し、開かれたサービス運営に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の場で運営や行事予定、利用者の状況等の様々な意見が出され、それらの中には提案等もあり、できる限り反映するようにしている。	普段から何でも相談できるような関係づくりに努めており、毎月の会議等で出される職員からの提案ついては、是非の前にまずはやってみる姿勢で取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員にとってのスーパーバイザーであり、管理者にとっては理事長がスーパーバイザーである。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望を聞きながら、年に1回は外部の研修を受講するようにしている。また、資格取得希望者には配慮し、目標達成の応援をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームと交流会を実施している。情報交換を地域ケア会議等を通して行っている。日本グループホーム協会に入会しており、青森県支部主催も含めて研修会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や担当ケアマネージャー等の情報を取り入れて、職員の意見を聞き、十分に情報を活かしたアセスメントを行い、信頼関係を重視した関係づくりを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望を取り入れて、利用者と同じように、信頼関係を重視した関係づくりを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活のことは、本人や家族とよく相談した上で、医療や介護の支援をするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は「介護を受ける人」ではなく「主体的に生活する人」として、また、職員は「介護の提供者」ではなく「生活のパートナー」として意識している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にはたくさん訪問していただけるように声がけしている。利用者を支援するために、場面場面で家族に相談しながら進めるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が安心してサービスを利用できるように、事前に本人や家族に聞き取りをしている。医療機関や理・美容院等も馴染みの所へ行けるように配慮している。職員はいつでも利用者の視点で家族と話し合って調整している。	利用者がこれまでの馴染みの生活を続けていけるように、近隣の診療所やデイサービスからの知人の立ち寄り、地域住民の訪問等を受け入れ、利用者主体の笑顔いっぱいの関係づくりに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「主体的に生活する人」同士がお互いをよく理解し合えるように関わっている。しかし、性格や価値観の違い等から摩擦が起きることもある。職員は非審判的態度で傾聴・受容・共感して支えるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院した方への支援として、便り等を持って訪問している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴･外出･食事等、いろいろな場面で決して急がせることはせず、利用者の希望をよく聞き、利用者のペースで支援することを心がけている。	職員は家族的な雰囲気の下で、利用者とできるだけ喜怒哀楽を共にし、笑顔豊かな交流ができるように努めており、利用者が希望や意向を話しやすい環境づくりに努めている。また、梅干し作りやミズの皮むき等、利用者がこれまで培ってきた技を活かして、生きがいに「役割」を感じていただけるように心がけ、生活の主体は利用者、職員はパートナーとして支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日常の会話等から情報を得て、支援に役立てるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者は皆で食堂で寛いでいる。個室の環境もよく、外の景色がよく見えて居心地が良く、自由に思い思いの物を持ってきており、不自由なく過ごされている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成しており、その基となるアセスメントも行っている。内容は具体的なものであり、職員、家族等と連携をとり、その時に合った介護計画の作成を行っている。	毎月の職員会議で利用者の課題について話し合い、それを基に、ケアマネージャーが利用者毎の介護計画を作成し、利用者や家族の了承の下に実施されている。概ね6ヶ月毎に見直しをしている他、利用者の状況に変化がある時等は随時見直しを行い、職員間でも共有しながら、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った視点で記録している。また、計画にないようなことも起きるので、職員間で連携しながら実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況に応じて、通院の送迎、理・美容院への外出支援等、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域を散歩したり、隣接地の子ども園やデイサービスとの交流を行っている。プライバシーに配慮しつつ、認知症を理解していただけるように、地域の方々に啓発活動も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関を継続して受診できるように支援している。受診後は家族に報告しており、情報の共有が図られている。	利用者や家族の希望に応じて受診できるように支援しており、近隣の診療所への受診も可能である。職員は利用者の症状の維持・改善に向けて、受診時には医師への的確な説明に努めている。また、診療所の医師や看護師、法人デイサービスの看護師との密接な連携により、利用者の安心に繋げると共に、家族にも受診状況を報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置されていないが、法人内の他の事業所の看護師に相談している。また、診療所の看護師からも具体的な助言をしていただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の地域連携室等と連携し、入退院時の情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取組んでいる	近隣病院でも医師不足は深刻な問題であり、日頃の連携はできているものの、ホームでのターミナルケアに向けた連携やマニュアル作成までには至っていない。しかし、管理者と利用者や家族とは話し合いが持たれている。	ホームでは重度化や終末期の対応は行わない方針であるが、家族から相談がある際は、医療機関への取り次ぎや、医師からの指示に基づき、利用者や家族の希望に沿ったサービス提供に努めている。また、利用者の退所時には病院の地域連携室と連携し、退所後の家族の不安を軽減できるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の個別の状態に応じて備えている。緊急時は主治医と家族に連絡し、必要であれば救急車を要請することを話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時は町の指定する場所に避難する体制である。夜間は職員が１人なので、近隣に住む職員が駆けつけることとしている。11月に夜間の火災を想定した総合訓練を実施する予定である。	津波を想定した町の災害訓練へ参加している他、ホームでも火災や津波を想定した避難訓練を毎年実施している。また、災害時の対応については、地域の警察や学校、病院、隣接住民へ協力を依頼し、法人職員の駆け付け体制も構築されている他、飲・食料関連の備蓄や暖房器具も用意している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に気を配っており、特に、言葉遣いについては管理者から注意することもある。各室の表札については利用者にとっては有効であるが、訪問した方や地域の人等に対しては十分に配慮している。	ホームでは高齢者への愛と尊敬の姿勢を謳った理念の実践に取り組んでおり、職員は日頃から、利用者の誇りやプライバシーを損ねることがないように、さりげない声がけや気配りに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いを把握して、職員間の情報共有を大切にし、利用者本位で生活できるように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の訴えを最優先して接するように努めている。一人ひとりに合ったペースで暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活歴や習慣、希望、利用者の趣味に合わせ、おしゃれや楽しみ事を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りから調理まで、利用者の能力に合わせて一緒に取り組んでいる。食事は会話しながら良い雰囲気で行うように努力している。	食事は法人の調理師と連携して献立を立て、利用者の状態に応じて刻み･ミキサー･とろみ等に調理し、見た目の盛り付けも工夫して提供している。また、利用者の状況等に応じて、食器拭き等を職員と一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員に調理師がおり、利用者一人ひとりの栄養バランスに配慮しており、それぞれに合った支援ができている。水分は1,500ccを目安としている他、摂取量に関しては、必要がある方は個人ファイルに記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各個室に洗面所があり、歯磨きや入れ歯清掃を自分でできる利用者には、毎食後、声がけによって行っている。困難な方は職員が一緒に行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の自立は課題の一つである。利用者は排泄を失敗することもあるが、さりげなく、根気強く支援している。	個別のチェック表があり、毎日の排泄を記録して、把握している。また、スムーズな排泄のためには、利用者の羞恥心に対するさりげない言葉遣いと配慮が大切であると考え、十分に注意して支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	便秘薬を服用している方もいるが、便秘気味の方には水分と食物繊維を多く含んだ食品をたくさん摂っていただくよう声がけをし、適度な運動もしていただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週に2回、1対1で介助して入浴していただいている。回数や入浴時間、介助方法について不満が出たことはない。現在は入浴を拒否する利用者はいない。	ホームは手すり・滑り防止が施された浴室で、基本的に週2回は入浴できるように、利用者一人に職員一人体制で支援している。また、入浴介助の必要な利用者には向いにある法人のデイサービスで入浴が行われ、安全に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自分で管理できる方はいないが、職員がその都度手渡しして、自分のタイミングで服薬するように見守っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や習慣、希望、利用者の能力に合わせて、何が楽しみ事になり得るかを把握しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等、積極的に外出の機会を作り、利用者に外出の喜びや楽しさを提供している。	日々の会話等を通じて利用者の行きたい場所等を把握し、なるべく希望を叶えられるよう外出行事を計画している。銀杏の木を見に行く等、季節を感じられるような場所に出かけたり、身体的な負担がないように、法人のマイクロバスを利用しながら出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時等は一定金額を所持していただき、自由に使っていただいている。多くの方は職員にいろいろ聞きながら買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームから家族に電話する時は、プライバシーを尊重しながら支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を大切にしている。窓からは診療所や子ども園、小学校等が見え、人々の日常生活が感じられる。	全館木目調の平屋のホーム内は、無段差、手すりの設置で利用者の転倒予防に取り組み、天窓や四方の大きな窓からは柔らかな日差しが十分に入り、明るい。大型のテレビやソファ、換気装置等が設置された食堂兼用のホールでは、利用者が思い思いにゆっくりと語らい、穏やかに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	木材がふんだんに使われて、家庭的な雰囲気である。周囲の風景が素晴らしく、岩木山も見え、いつでも季節を感じながら生活している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた調度品等を持ち込めるように働きかけを行っており、テレビや衣装ケース等を持ち込んでいる。行事の写真や手作りの作品等を飾っている。	利用者が部屋間違いの混乱をしないよう、居室入口には手作りの折り紙を付けた表札がかけられている。また、利用者がこれまでと変わらない生活を送れるように、居室には塗り絵や写真、習字等が飾られており、思い思いの居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自火報設備やスプリンクラー設備があるが、いざという時は皆の協力が必要であり、定期的な避難訓練も行っている。		